

2018年9月吉日

会員のみなさま

大阪府臨床心理士会会長 加藤 敬
研修委員会委員長 松谷真美

2018年度 大阪府臨床心理士会 合同研修会のご案内

2018年度大阪府臨床心理士会合同研修会を下記のとおり開催いたします。今回は各部会より10企画の研修を1日研修の形で実施いたします。参加者の皆さまには、午前・午後の希望研修をお選びいただきますようお願いいたします。

会員の皆様には、ご多忙の時期とは存じますが、積極的なご参加をお待ち申し上げます。

記

1. 日時：2018年12月2日（日）10：00～16：30

2. 場所：大阪経済大学D館（7頁の会場案内地図参照）

※会場の空調は集中管理のため、各自、調整できるようにご準備ください。

3. スケジュール：

9：30～10：00 受付

※今回の研修はすべて事前申し込みのため、当日参加の受付はいたしません。

10：00～12：30 午前の部

研修一覧（それぞれ第2志望まで選択してください）					
午前	A P-F スタディ	B オープンダイアログ	C Vineland	D 臨床法医学	E 自主企画

※会場の都合により、定員を制限する場合があります。

12：30～14：00 昼食・休憩（大学の食堂が利用できます）

※書籍販売があります

14：00～16：30 午後の部

研修一覧（それぞれ第2志望まで選択してください）					
午後	F 薬物療法	G ひきこもり	H ナラティブ	I 女性キャリア	J 交流分析

※会場の都合により、定員を制限する場合があります。

4. 研修内容：

◇ ◆ ◇ 午前の部 ◇ ◆ ◇

《A》 P-F スタディによる個人理解について ～実施から解釈までを考える～

P-F スタディは、心理臨床の現場で使用頻度の高い投影法検査の1つです。臨床現場において適切に使用し、その結果を個人理解に活かすためには、どのような点を考えなければならないのでしょうか。本研修会では、長年にわたってP-F スタディの研究をされてきた秦一士先生から実施法や解釈法についてお話しいただきます。また、後半は質疑や内容分析を含めた解釈例を示しながら、適切な解釈について検討する予定です。参加者の皆様とともに、P-F スタディの実施、解釈について理解を深める機会にしたいと考えております。

企 画：医療保健部会
講 師：秦 一士（甲南女子大学）
講 師：安井知己（甲南女子大学）
司 会：平野 徹（馬場記念病院）

《B》 オープンダイアログの可能性 ～領域を超えた支援に向けて～

皆さんは本人や家族を含めた関係者が集まり「開かれた対話」をすることで、薬や入院治療を極力控えた治療につなげていく「オープンダイアログ」という手法をご存知でしょうか？日本では統合失調症だけでなく、うつやひきこもり、発達障がいについても実践が行われています。

今回は、その手法をフィンランドより持ち帰り、普及活動をされている斎藤環先生をお招きし、その理論や方法をお話しいただきます。対話を通してクライアントと向きあう臨床心理士は、各々の領域でオープンダイアログをどのように活用できるのでしょうか？医療だけにとどまらず、他領域へと広がるオープンダイアログの可能性を考える機会にしたいと思っております。

企 画：教育部会
講 師：斎藤 環（筑波大学大学院 医師）
司 会：伊藤やよい（大阪府公立学校スクールカウンセラー）

《C》 Vineland-II 適応行動尺度について ～その概要と臨床的な活用方法について～

発達障がいの支援において、知能・発達検査といった知的・認知機能のアセスメントツールがよく利用されます。しかし、発達障がいのある人にとって、知的・認知機能のアンバランスさだけでなく、適応行動に関するアンバランスさも生活を困難にする要因となります。Vineland-IIは、0歳から92歳までを対象に、その対象をよく知る人物への半構造化面接から適応行動を評価していきます。対象を「能力があるか、どうか」ではなく「行動をするか、しないか」で評価するため、より日常に即した姿を評価することが可能です。本研修では、Vineland-IIの概要を森裕幸先生よりお話しいただき、臨床での有効な活用について学びを深めます。

※研修を効果的に進めるため、各自検査用紙をお持ちいただくことをお勧めします。お持ちでない方は、研修会場にて1部540円でご用意いたします。つり銭の要らないようご準備ください。

企 画：福祉部会
講 師：森 裕幸（海老名市立わかば学園）
司 会：木村 司（通所支援事業所とことこ）

＜D＞ 臨床法医学鑑定の実際と多職種連携

昨今、子ども虐待をはじめ女性への暴力、高齢者虐待への対応件数は年々増加の一途を辿っており(厚労省 HP より)社会問題となっています。臨床心理士は、さまざまな現場において虐待問題への対応を迫られています。本研修は、山口大学大学院法医学講座の高瀬泉先生をお招きし、子ども虐待、高齢者虐待、性暴力やパートナーへのDV等の事件における臨床法医学鑑定^{※1)}の実際についてお話していただきます。また臨床法医学者と臨床心理士が虐待問題にどう協働することができるのか議論を深めていきたいと思えます。

※1) 生きているひとの傷跡等から虐待行為を鑑定するといった法律に関わる諸問題に対し公正に医学的判断を下す学問

企 画：司法・矯正部会
講 師：高瀬 泉（山口大学大学院 医師）
司 会：二見真美（司法心理研究所）

自主企画

＜E＞ 若手・中堅臨床家のトレーニング・プロセス ～「行き詰まり」から学ぶこと～

臨床家として成長していくということは、揺れや行き詰まりと向き合い、アイデンティティを統合していくことだと考えます。本研修会では、実践および臨床家の養成に打ち込んでおられる京都教育大学の内田利広先生を講師にお迎えします。はじめに、(1)内田先生による「最近のSV体験から見えてきた心理臨床家のトレーニング・プロセス」についてのご講義、(2)中堅臨床家による「行き詰まり」や「臨床家としての振り返り」に関する話題提供、そして、(3)参加者によるディスカッションでは、(2)を糸口として、自分の面接について考え、「行き詰まり」体験や工夫を持ち寄り、成長への新たな手掛かりの場にしたいと思えます。

企 画：東 真由美／研修委員会承認企画
講 師：内田利広（京都教育大学）
話題提供：山本彰子（私学スクールカウンセラー）
話題提供：東 真由美（大阪国際大学）
司 会：藤田恵津子（公立鳥取環境大学）

《F》 薬物療法 はじめの一步 ～事例でひもとく理解の道筋～

「薬物療法」と聞くと、ついつい避けてしまいがち。しかし現場では、医師や看護師等の他職種との業務を行う上で、薬物療法は1つの共通知識となっています。本研修では専門医より事例を提示し、治療開始から終結までの経過を具体的に追っていきます。経過の中で薬の作用・副作用の現れ方に気付き、初期投薬から治療終了に至る一連の流れを理解します。また、薬物療法は精神療法や患者教育と組み合わせることで一層の効果を発揮します。これらの知識を学ぶことで、心理職の腕の見せ所は職場で広がっていくでしょう。職場では言えないけど、大学院で薬について学べなかった方、薬という言葉に抵抗のある方にこそ、ぜひご参加いただきたい研修です。

企 画：医療保健部会
講 師：池田俊一郎（関西医科大学 医師）
司 会：桑田直弥（藤井寺特別養護老人ホーム）

《G》 ひきこもり予防と初期対応 ～思春期支援から始まる予防の視点～

内閣府の調査による15歳～39歳までの広義の「ひきこもり」は、約54万人と推計され、当事者の高齢化も8050(80代の親、50代の子)問題として実態調査がはじまるなど大きな社会問題となっています。思春期支援に関わる臨床心理士は、不登校の延長線上に社会的ひきこもりがあることにも目を向け、相談活動を行う必要性を感じています。

本研修では、はじめに社会的ひきこもりについて第一人者である斎藤環先生から支援に必要な知識やポイント等についてお話しいただきます。次に、ひきこもり支援を中心に活動されている岡崎剛先生に話題提供をいただき、我々が当事者の立ち直りにできることは何かを考えていきたいと思えます。

企 画：教育部会
講 師：斎藤 環（筑波大学大学院 医師）
話題提供：岡崎 剛（メンタルワークス大阪）
司 会：岡田信吾（大阪府立高校スクールカウンセラー）

《H》 ナラティブ・エクスポージャー・セラピー(NET)とライフストーリーワーク(LSW)の接点

ナラティブ・エクスポージャー・セラピーは、トラウマ性ストレスとPTSDに有効な短期療法であり、日本でも虐待や喪失体験を経験した子どもや同様の体験を持つ成人を対象に実践されています。一方、ライフストーリーワークは、自分の生き立ちを理解し、受け入れることを手助けする方法としてイギリスで実践され、過去、現在、未来をつなげることが大きな目的となります。両者は方法こそ異なりますが、過去を振り返るといった共通項があります。

本研修では、まず森茂起先生と才村眞理先生に技法についてご講義頂きます。その後、両先生の対話を通じて、トラウマや喪失の体験を振り返り、整理することの重要性について検討していきます。

企 画：福祉部会
講 師：森 茂起（甲南大学）
講 師：才村真理（武庫川女子大学）
司 会：服部隆志（大阪府中央子ども家庭センター）

《I》 女性のライフイベントとキャリア形成の両立支援

～「結婚してもママになっても私らしく働きたい」を「わがまま」で終わらせないために～

働きたい女性にとって、結婚や出産などのライフイベントと仕事の両立は大きな心理的負担となり、就業継続を難しくさせキャリアの停滞を招いています。生活スタイルや妊娠・出産による体調変化で業務に時間と体力をかけられず、周囲に罪悪感を抱く女性も少なくありません。職場もこうした時期にある女性への接し方や活用に戸惑っている面もあります。女性の活躍を推進するには、女性自身へのキャリアとストレスの両面からの支援と共に、職場に対する心理支援やコンサルテーションが必要です。この研修では、女性のキャリア形成とライフイベントの問題に、臨床心理士がどのように寄与できるかを模索したいと考えています。

企 画：産業部会
講 師：金井篤子（名古屋大学大学院）
司 会：菊田和代（三菱電機株式会社）

《J》 カウンセリングに活かす交流分析（TA）～脚本分析への展開～

フロイトの精神分析の口語版とも称されるTAは、理論を進めていく過程で、精神分析のエッセンスを要所要所に取り入れながら、心理ゲーム分析、脚本分析へと展開しました。また、エリック・バーンは、「TAの究極の目標は脚本分析にある」と折にふれて述べ、その有用性を提唱してきました。

今回は、カウンセリングの中で「脚本の書き換え」にチャレンジし、新しい自己との契約を結んだ30歳代女性の事例を通して、「脚本分析をカウンセリングにどう活かすか」について取り上げる予定です。特に、「心理ゲーム分析」「脚本分析」「脚本分析事例」に関心をお持ちの皆さま、是非ご参加をお待ちしています。

企 画：私設相談部会
講 師：福間笙子（元(公財)関西カウンセリングセンター）
司 会：吉田瑞子（Y's カウンセリングビューロー<ロゼット>）

5. 諸手続き

- ① 申込締切：10月26日（金）（当日消印有効）
締切厳守でお願いします。
当日受付はいたしませんので、ご注意下さい。
- ②参加費：
大阪府臨床心理士会会員 3,000円
非会員（但し、臨床心理士資格取得者に限る） 5,000円
- ③参加ご希望の方は、同封の郵便振替払込用紙に必要事項を記入し、参加費を入金してください。「払込金受領証」をもって領収書といたします。特に領収書が必要な方は、研修当日に事務局受付までお越しください。
- ④振込先 ゆうちょ銀行 00950-6-64668 大阪府臨床心理士会
- ⑤郵便振替払込用紙には、午前と午後の希望する研修をご記入ください。なお、定員を超える参加希望があった場合、他の研修にご参加していただくことがあります。振替払込用紙には、午前・午後それぞれ第二希望までご記入ください。
- ⑥希望研修が未記入の場合、当日ご希望の研修に参加できないこともありますので、あらかじめご了承ください。
- ⑦参加費入金後は、研修の変更をお断りさせていただきます。
- ⑧参加申し込み締め切り 10月26日（金）までに手続きされた参加者には、11月下旬に「参加証引換票」のはがきをお送りします。当日忘れずにご持参ください。
- ⑨一度入金された参加費は返金できません。ご了承ください。
- ⑩本研修は、資格更新のための研修ポイント（2点）を申請予定です。
研修会終了後、各研修会場にて、「参加証」と交換で、研修証明書を配付します。
（遅刻・早退は30分以内を限度とします）。

6. 問い合わせ先

お問い合わせは、大阪府臨床心理士会事務局まで、メールまたはFAXでお願いします。2週間以内に返答がない場合、メールかFAXが本会事務局へ届いていない可能性があります。再度お問い合わせくださいますよう、お願い致します。

大阪府臨床心理士会事務局

Mail : osakacp@osccp.jp

Fax : 06-6942-5110

Home Page : <http://www.osccp.jp/>

7. 会場(大阪経済大学)へのアクセス 大阪経済大学 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅 2-2-8

- ・ 阪急京都線「上新庄」駅、徒歩約 15 分
- ・ 地下鉄今里筋線「瑞光四丁目」駅、徒歩約 2 分
- ・ 市バス「大阪経大前」下車



8. 託児サービスのご案内

小さなお子様のいる方でも当日、安心してゆっくりご参加いただけるよう、託児サービスをご用意しております。

利用可能時間	午前 9 時 30 分から午後 5 時 00 分まで
対象年齢	1 歳以上 6 歳まで（未就学児に限ります）
対象	合同研修会の参加者（非会員もご利用できます）
定員	15 名（先着順）
託児場所	大阪経済大学内（申し込まれた方に後日お伝えします）
利用料金	2,000 円（他府県会員も同じ）
利用方法	予約制
託児形態	託児サービスは株式会社ポピンスに委託して実施します。
利用申込・お問い合わせ	同封の案内チラシをご確認いただき、利用申込書に必要事項をご記入のうえ、株式会社ポピンスまで FAX にてお申し込みください。 株式会社ポピンス大阪支社 チャイルドケアサービス部 担当：竹内・平尾 電話 06-6367-2100 FAX 06-6367-2105
その他	保育に配慮が必要な場合は、ご予約時にお申し出ください。 大阪府臨床心理士会および大阪経済大学は、本サービスおよび会場内外での事故等の責任を負いかねますので、ご了承ください。 詳細は同封の案内チラシを御覧ください。

